

弊社商品をご愛顧いただいている皆様へ

## お取引先様に送達された差出人不明の文章につきましての報告書

いつも当社ならびに明日香野の和菓子をご愛顧いただきありがとうございます。社員一同、心より感謝申し上げます。

この度、2020年6月に複数のお取引先様から、3年前の2017年12月2日ならびに12月5日の当社元社員から代表取締役社長此下竜矢へ送られましたメール（本件メール）をプリントアウトしたものが投書されたとのことのお知らせをいただきました。この件についてご報告申し上げますとともに、これまでの当社の取組ならびに、今後の本件に対する当社の対処をご説明申し上げます。

本件メールは3年前の上記日に元社員から代表取締役社長此下竜矢に送られたメールでした。また本件メールはBCCにて当社のメールアドレスを持つ当時の全社員に向けても送られておりました。内容としては1. 東日本事業部の2名によるパワーハラスメントがある、2. 八尾市工場製造品の品質に問題があり製品の廃棄が大量である、という告発となっております。

当社は当時、本件メールを受けて調査を行いました。その内容において事実であったものについては真摯に受け止めて対処し、さらにこの3年間で改善して参りました。これからも改善を進めて参る所存です。1及び2についての内容は以下に詳述いたします。

### 1. 東日本事業部野田市工場におけるパワーハラスメントについて

#### (1) ハラスメントに関する当時の体制

当社の就業規則には2016年6月1日改定のものからハラスメントを禁止する規定が盛り込まれておりました。さらに取り組みを強化すべく2017年10月2日に弊社代表取締役社長よりハラスメント防止に向けた基本方針が示され、同月20日には相談窓口が設置されました。相談担当者は外部で相談担当者としての教育を受けた者を配置し、女性の相談担当者も配置しておりました。

※ [1-A 就業規則](#)

※ [1-B 職場のハラスメント防止に向けた取り組みについて](#)

## (2) ハラスメントの事実確認と対応

本件メールは上記1-(1)の就業規則や方針に反するハラスメントが2名によってなされているという指摘でした。

本件メールに先立って、当該ハラスメントの一部について2017年11月9日には被害者本人から相談が行われておりました。相談者から直接ヒアリングを行うとともに、行為者、周辺のヒアリングなど社内調査を行い、本件メールに書かれていた行為ならびにそれ以外の行為なども代表取締役社長直属で総務部が中心となり、調査をしておりました。本件メールはその調査中に送られてきたものです。[※2 参考資料](#)

すべての行為ではないものの、A氏B氏の部下への指導等に行き過ぎたものがあり、就業規則に反する行為に該当するハラスメントに該当すると認められました。

そのため、当社は懲罰委員会を組成し、外部の弁護士の意見も聴取して、慎重に検討した結果、懲戒処分としてA氏には役職停止と減給を命じました。また同人は役職を退任しております。B氏には2階級降格、及び被害者との接点をなくすため、部署と勤務地異動という処分を行っております。両処分とも社内で公示されております。これらは厳罰でありつつも、日本の労働法に準拠した処分であったと考えております。

## (3) その後の対策と現状

本件メールに先立って全従業員向け総合的相談窓口が設置されておりました。ハラスメントに限定しても、2017年12月より、外部の講師を招聘し、全社員にハラスメントに関する教育を開始しておりました。その後、継続して、社員ならびに新入社員に対してもハラスメントに関する教育を行っております。

相談窓口には時折、ハラスメントに関する相談がありますが、毎回、代表取締役社長に報告され、事実確認を行います。また、外部の弁護士の意見を聴取しながら、ハラスメントなどの就業規則に反する行為が確認された場合には、懲罰委員会を組成し、慎重に検討し処分を決めております。このように、相談窓口は当該事例が初めての活用実績となりました。そのため、その後の事例への対処における行動規範を形成するものとなりました。例えば、上記のように相談窓口に寄せられた全てのハラスメント案件は社長直属となり、総務が対処する形式は現在まで当社の標準的な対応となっております

このように弊社としては、よりよい職場づくりを目指し日々取り組んでおり、今後も努力してまいります。

また、当社の処分は基本的には反省を促し、同人らの更生を旨として行われております。上記処分を受けた兩名はその後、改悛し、職務に精励、会社に貢献を続けながら改善が認められました。十分に反省していることから、結果として、A氏に関しては2019年1月に、B氏に関しては2020年3月に元の役職に復しております。

## 2. 西日本事業部八尾市工場製造品の品質について

### (1) 品質管理に関する当時の体制

当社の微生物検査基準は以下ようになっており、安全を確保しております。これは洋生菓子の衛生規範（一般）を参考に、当社独自のより厳格な基準を設けているものです。

微生物検査基準（2016年1月28日より）

	一般生菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌
一般	10万以下/g	(-)/g	(-)/0.1g
自社管理	75,000以下/g	(-)/g	(-)/0.1g

■注釈 (-):陰性

また、作られた製品については毎日品質管理部門が検食を実施することによって、味、色、食感などが製品ごとの標準に合致したものになるようにしております。

上記基準に基づいて、品質異常が起きたと認められる場合、あるいは起きた可能性がある場合には出荷止めし、製品を廃棄、再製造することで安全性を確保しております。（この基準は当時から現在もそのようになっております。）

### (2) 工場の衛生状況についての事実確認と対応

本件メールは上記2-(1)の菌基準を超えた製品が多く、廃棄が多量になっているという指摘をするものでした。

本件メールが指摘している2017年7月1日から12月31日の半年間184日の間、八尾市工場において菌検査の結果、製造日で54日、78件の廃棄を行っております。菌数が基準を超えることがしばしばあったことが認められると同時に、当社の基準通り廃棄と再製造が行われたことが確認されております。その一方、当社の製造品の菌等による健康被害は一度も報告されておられません。

### (3) その後の対策と現状

廃棄処分をしなければならない製造品が出るという事実は、重要な経営課題として捉えておりました。そのため当社としての取組をこの3年間も継続しております。①当社ス

スタッフによる日常的な向上と設備の清掃洗浄の強化、②外部専門家による清掃洗浄を継続、③清潔性を保つための従業員教育の強化、④入退室や清掃洗浄のプロセスの改善、⑤2019年7月新洗浄設備導入、などが主なものとして挙げられます。

この結果、2020年1月1日から6月5日までの157日間においては、製造日で6日、6件の廃棄を行なっております。2017年後半と比べて10分の1以下に減少していることが確認されております。

また、2019年2月には大阪本社・八尾市工場においては食品安全管理を実践するための国際規格のFSSC22000を取得いたしました。その後、2019年12月に第1回更新の際の無予告審査も受けましたが、基準を満たしていることが認められ、認証を継続して頂いております。※3 [FSSC22000 登録証](#)（個人名のみ隠しております）

FSSC22000 公式 URL <https://www.fssc22000.com/>

日本品質保証機構 FSSC22000 URL

[https://www.jqa.jp/service\\_list/management/service/fssc22000/](https://www.jqa.jp/service_list/management/service/fssc22000/)

これらの成果は当社品質管理部のスタッフならびに、製造スタッフ一体の取組による地道な絶え間ない努力の結果と考えております。上記のようにこの3年間で当社の品質管理レベルは大幅に上昇したと考えております。

### 3、当該文章の送付された経緯について

当社は、本件メール自体は真摯な告発と受け止めて対処してまいりました。その取り組みは、上記3年間の改善活動の一部となり、当社の従業員の就業環境改善や問題解決、当社がお客様ならびに消費者の皆様にお届けする商品の品質向上に資するものでした。この点、本件メールに対して感謝しております。

一方、3年が経過した今日になって、本件メールが当社のお取引先様に投書され、ご不安を煽っております。どのような経緯でまた誰が投書したのかは当社には伺いしれません。また当社自身が調査できる内容ではありません。しかしながら、当該行動は当社の事業活動を妨害することを意図したものであることは明白です。

本件メールの差出人は当社に就労環境と品質管理レベルの向上を求めておりました。当社の従業員の雇用と事業継続を危険に晒す今回の使われ方は、差出人自身の考えとはかけ離れております。また当社は従業員300名以上に対する雇用継続の責務を果たすために

も、易々と看過するわけにはいきません。そこで近々被害届を出し、警察等の捜査機関に捜査を任せてまいります。

当社製品の安全には今後とも真摯に取り組むとともに、言われぬ不安を煽る不法行為には厳正に対処してまいります。お取引先様におかれましては、ご理解とご安心をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

今後とも明日香食品ならびに明日香野は「ちょっと食べる喜びを毎日世界へ」をミッションに、心を込めた安全な和菓子に一意専心、お取引先様を通じて皆様にお届けしてまいります。このところも、わらび餅、あんこ餅、桜餅、笹団子、おはぎ、など大変ご好評いただいております。心から感謝しております。これからも末長く皆様に愛されるブランドであるために毎日の努力を積み重ねてまいります。このことを誓い申し上げて、この報告書を終わらせていただきます。

2020年6月8日

明日香食品株式会社  
代表取締役社長 此下竜矢